

## 平成22年度第4回理事会第4回合同委員会議事録

1. 日 時:平成22年11月11日(木) 13:00～16:00

2. 場 所:メルパルク名古屋 1F「輝の間」

3. 構成員:理事 24 名、監事 2 名、合計 26 名

4. 出席者:

会 長	浅井 光昭	ダンロップ	副 会 長	西村 潔	京阪
副 会 長	三治 明	正眼寺	副 会 長	石井 信成	那須野ヶ原
常務理事	笠原 泰夫	名古屋港・富浜	常務理事	加藤 義孝	名古屋広幡
常務理事	森 章次	アオノ	常務理事	林 一郎	千葉よみうり
常務理事	樋口 平和	大阪	常務理事	藤下 亘理	よみうり
理 事	木村 妙子		理 事	久保田誠一	
理 事	丹地 保堯		理 事	宮内 清	
監 事	森田 敬		特別委員	久保田英示	正眼寺
特別委員	小島 俊	セントレジャー千葉	特別委員	加藤 和哉	亀山
特別委員	西 治彦	八千代	特別委員	鶴田 浩司	森林公園
特別委員	竹山 和彦	グランシエロ	特別委員	小野 和彦	小松
特別委員	六車洋二郎	コート・パール徳島	特別委員	山根 昭俊	水島
陪 席	牧 俊一	名古屋広幡	事業委員長	丸山 信久	事務局
専務理事	島田 忠次	事務局	事 務 局	中村 知則	事務局
事 務 局	小山内美枝	事務局	事 務 局	久保 拓二	事務局

以上30名(理事15名、監事1名、特別委員9名、陪席1名、事務局4名)

5. 会議概要:

(1)事務局より定足数について、理事会の構成員数は理事24名、監事2名、合計26名である旨の確認と、本理事会には理事15名、監事1名、合計16名の出席を得ており、定款第31条に定める成立定足数(構成員の2分の1以上の出席)を充足しており、本理事会は有効に成立している旨の報告があった。

(2)次いで、浅井会長より次の通り開会挨拶があった。

本日は、お忙しい中ご参集いただき有難うございます。競技関係は先月の全日本シニアを以って、全選手権競技が無事終了しましたが、会員皆様のご協力に感謝致します。

本年度の参加者数は、最終確定人数ではありませんが17,876名で、昨年度と比較しますと、残念ながら624名減少となりました。一言で言いますとミッドアマは順調、対してパ選、シニアは苦戦と言うことです。私としては、選手権競技で合計2万名のイメージを持っております。

今年は景気の影響、梅雨時の大雨、引続いての記録的猛暑の影響等、色々と原因が考えられますが一寸残念な気がしており、来年度の盛り返しを期待します。

(3)引き続き、浅井会長が公益社団法人日本パブリックゴルフ協会平成22年度第4回理事会・第4回合同委員会の開会を宣言した。

(4)定款第30条に基づき浅井会長が議長に就任する旨の宣言、並びに、定款第32条に基づき議事録署名人の選任について、議場から議長一任の許しを得て、森田敬監事を指名し、議場に諮った処満場一致で承認された。

次いで、議事進行役に島田専務理事を指名し早速議事に入った。

## 6. 審議事項

### 第1号議案:各委員会正・副委員長交替(案)の件

### 第2号議案:特別委員委嘱(案)の件

藤下総務委員長より、第1号議案「各委員会正・副委員長交替(案)の件」について、総務委員会 伊藤一政副委員長(水島)の辞任に伴い、委員会規程第6条に基づき後任候補者の推薦、並びに審議要請があり、次いで第1号議案の承認を前提として、第2号議案「特別委員委嘱(案)の件」について、特別委員運用規程第1条2項に基づき、山根昭俊総務委員会新副委員長(水島)に特別委員を委嘱したいとの提案があり、第1号第2号議案を一括して議場に諮ったところ、原案通り議決承認された。

委員会		新	旧	推薦地区
総務委員会	副委員長	山根 昭俊(水島)	伊藤 一政(水島)	西日本

### 第3号議案:平成23年度競技日程の件

丸山事業委員長より、第3号議案「平成23年度競技日程の件」について提案があり、審議の結果、原案通り議決承認された。また、丸山事業委員長より平成23年度各競技の予選開催コース数に関して報告があった。

- (1)平成23年度競技より、パ選男子、ミッドアマ男子の予選、並びにスポンサー杯・ハンディ杯は、会員全コースでの開催義務化を決定したが、結果はパ選男子は前年度比3会場増加、ミッドアマ男子は同14会場増加、スポンサー杯・ハンディ杯は同19会場増加した。西日本地区の一部のコースでコース改造等の特殊事情から、開催できないコースが見受けられ残念ながら全会員コース開催は果たせなかったが、止むを得ない事情と思われ、先ずは一步前進との思いがある。会員全コース開催義務化により、参加者数の減少に歯止めがかかることを期待したい。
- (2)協会事業競技であるドリーム・エイジゴルフ大会の開催コース数も今一つ伸びず、急遽会員コースに対して開催依頼状を発信した。結果は30コース開催とやや寂しい状況だが、ドリーム・エイジゴルフ大会の位置付け、コンセプト、高齢者の健康の保持増進に対する寄与と言う、社会的目的がある点ご理解いただきたい。一方には赤字競技との側面もあり、早急に60とか70コースでの開催を望みたい。

#### 【予選開催コース数】

	東日本(32)		中部日本(11)		西日本(41)		北・青(5)		合計(89)	
	H22	H23	H22	H23	H22	H23	H22	H23	H22	H23
パ選 男子	33	32	11	11	36	38	3	5	83	86
パ選 女子	28	23	7	1	27	26	—	—	62	50
ミッドアマ男子	31	32	10	11	27	38	4	5	72	86
ミッドアマ女子	22	22	7	7	21	21	—	—	50	50
シニア 男子	26	25	11	11	31	30	—	—	68	66
シニア 女子	18	17	7	7	24	22	—	—	49	46
ミッドシニア	22	18	11	11	26	24	—	—	59	53
合計	180	169	64	59	192	199	7	10	443	437
アンダーハンディ	25	31	10	10	26	35	1	5	62	81
ドリームエイジ	10	7	8	8	11	13	2	2	31	30

(注)1. 新潟サンライズ(東日本):本年度末を以って退会予定=会員コース数 89

2. パ選女子中部日本は、平成23年度以降 初日予選・二日目地区決勝方式に変更

### 第4号議案:シニア競技参加資格変更の件

丸山事業委員長より、第4号議案「シニア競技参加資格変更の件」について、平成23年度より

シニア3選手権競技の地区決勝、並びに全日本を同日・同会場開催と決定した。これを受けて65歳以上男子について、シニアもしくはミッドシニアの何れか1競技のみエントリー可とし、ダブルエントリーは認めない、との協会見解を統一する旨提案があり、審議の結果原案通り議決承認された。

#### 第5号議案:平成23年度アンダーハンディ競技地区割の件

丸山事業委員長より、平成22年度スポンサー会議は、平成22年10月14日(木)コート・ベール徳島ゴルフクラブにて開催され、平成23年度スポンサー杯開催枠が決定された。各地区への割当は平成22年度実績並みとしたい旨の提案があり、審議の結果原案通り議決承認された。また、例年同様にスポンサー各社より「賞品提供の社内的な理由付は参加者人数であり、平成23年度は全開催会場で最低参加人数60名をクリア願いたい」との付言があった。

##### 1. スポンサー杯

- (1)ダンロップ杯、ブリヂストン杯、サンレオ杯 :80開催(前年度同数)
- (2)キャロウェイ杯 :10開催(新規追加)

##### 2. ハンディ杯

- (1)全会員コース開催義務化 :北・青地区 1⇒5開催(4開催増)
- (2)ハンディ杯合計 :27開催(10開催減=新規キャロウェイ杯見合。西日本2開催増)

##### 3. 合計 :スポンサー杯 90開催、ハンディ杯 27開催、合計 117開催

	東日本	中部日本	西日本	北海道・青森	合計
ダンロップ杯	16	7	20	—	43
ブリヂストン杯	10	5	9	—	24
サンレオ杯	5	4	4	—	13
キャロウェイ杯	4	3	3	—	10
小計	35	19	36	—	90
ハンディ杯	9	5	8	5	27
合計	44	24	44	5	117

#### 第6号議案:平成23年度競技参加賞・記念品の件

丸山事業委員長より、第6号議案「平成23年度競技参加賞・記念品の件」について提案があり、審議の結果、原案通り議決承認された。

	参加賞(予選)	記念品(地区決勝)	記念品(全日本)
パ選	キャップ・サンバイザー	アクリル製トロフィー	銀製グリーンマーカー
ミッドアマ			
シニア			

#### 第7号議案:「2011ジャパンゴルフフェア・ブース出展」の件

丸山事業委員長より、第7号議案「2011ジャパンゴルフフェア・ブース出展」の件について、社団法人日本ゴルフ用品協会主催の「2011ジャパンゴルフフェア」は、平成23年2月18日(金)から20日(日)に開催される。平成21年度に引き続き、協会活動のPR、競技参加者の増大を図る為、ブース出展について提案があり審議の結果、原案通り議決承認された。

なお、昨年度同様にブース出展費用は協会負担、企画・運営を東日本地区に一任する。

#### 第8号議案:「全道ゴルフ大会」に対しパ選シード権付与の件

丸山事業委員長より、第8号議案「全道ゴルフ大会」に対しパ選シード権付与の件について、「全道ゴルフ大会」を主催しているヒーローズジュニアクラブ代表・橋立幸宏氏より、同大会の成績上位者に対し、パブリック選手権北海道・青森地区決勝大会への出場資格付与の申請が

あり、中学男子の部、高校男子の部それぞれ上位者3名に対してシード権付与の提案があった。

なお、今次シード権申出に至った経緯に関して、事務局より報告があった。先般の合同委員会にて北海道・青森地区の活性化に関しての議論を受け、事務局は平成22年8月に、当地区の新規会員勧誘として加森観光株式会社(北海道にパブリックコースを3コース、国内に合計15コース、海外に1コースを保有する総合リゾート会社)の加森社長と面談し入会を依頼した。また、パ選北海道・青森地区決勝会場にて、日本プロゴルフ協会ジュニア委員会北海道地区代表委員である、橋立プロに北海道の競技会事情に関して話を伺った。その際、橋立プロが主宰している「全道ジュニアゴルフ大会」の成績上位者に対し「地区決勝の出場資格を与えていただければ、パ選ほど大きな規模の競技会であるので、選手は喜んで出場します」という話、並びに是非その実現に向けてご努力いただきたいとの依頼があり、今次申出となったものである。

本議案に関して、下記の通り質疑応答があり審議の結果結論は保留、北海道・青森地区会員コースの意向を確認した上再度附議することになった。

#### 【質疑応答】

- 石井副会長:全道ジュニアゴルフ大会・高校生男子の部の参加者は何人なのか。
- 事務局 :本年度実績は5人。過去3年では10人から15人規模の競技会である。
- 石井副会長:参加者5人の競技会に対して上位3名にシード権を付与するのはいかがか。
- 浅井会長 :我々の立場からすると参加者が増えるのでシード権付与は構わないが、他の選手、関係者等、第三者の視点からはやや奇異か。北海道高ゴ連の主催競技等更に規模が大きい大会にシード権を付与した方が良いのでは。
- 島田専務理事:勿論、北海道高ゴ連にも今後アプローチしたい。北海道・青森地区を活性化させる為にも橋立プロが主催する競技とも提携したい想いはある。全道ジュニアゴルフ大会は、先に説明した入会勧誘先加森観光(株)との絡みがある点ご理解いただきたい。
- 浅井会長 :北海道・青森地区の特殊事情を考慮し、今回のシード権付与が活性化に繋がるのであれば賛成である。但し、今後北海道高ゴ連に対してシード権付与が決まった場合、競技参加人数のバランスを見ながらシード人数を調整したら如何か。
- 森理事 :北海道・青森地区の競技委員長は、今回のシード権付与の経緯を把握しているのか。
- 島田専務理事:北海道・青森地区には新規入会コースの勧誘活動として、加森観光(株)にアプローチの話をしたが、シード権付与については話をしていない。
- 石井副会長:以前、北海道・青森地区は東日本地区の中で競技を運営してきたが、様々な諸事情があり、現在は事務局が北海道・青森地区をサポートする形式をとり、独自で競技運営を行っている。今回のシード権付与も北海道・青森地区の競技委員等から出された要望であればシード権付与に賛成したい気持ちはある。
- 島田専務理事:本件に関しては、北海道・青森地区と協議し再度附議することとする。

## II. 報告事項

### 第1号議案:平成22年度スポンサー会議報告の件

丸山事業委員長より、第1号議案「平成22年度スポンサー会議報告の件」について、平成22年10月14日(木)にコート・ベール徳島ゴルフクラブにて開催され、スポンサー各社の開催ギャランティ回数、地区割当枠は審議事項第5号議案で附議の通りであり、その他の事項に関して報告があった。

- (1) スポンサーよりアンダーハンディ競技参加者に対して、参加動機・年齢構成等のアンケート調査の依頼があった。従来アンダーハンディ競技のアンケートの実績は無く、活性化を目指している現在重要な問題であり、平成23年度より実施したい。アンケート内容は改めて平成22年度第5回理事会・合同委員会でお諮りしたい。
- (2) 当協会から地区決勝時に試打会、フィッティングイベント、契約プロとのドラコンイベント等を提案した。本件はスポンサーの都合を勘案しながら今後協議して行く。
- (3) その他、詳細は議事録を参照されたし。

#### 第2号議案:他団体に対し平成23年度競技後援並びにシード権要請の件

事務局より第2号議案「他団体に対し平成23年度競技後援並びにシード権要請の件」について、後援要請は例年通り、シード権要請は平成21年度同様に引き続き新規・並びに追加・変更申請を申し入れる。更に今回は、スクラッチ競技に加えJGA、地区連盟主催のアンダーハンディ競技に対して、当協会経由のJGAハンディキャップ取得者に対して、門戸を開放すべく参加資格を認めるよう要請する旨の報告があった。

#### 第3号議案:平成23年度他団体の競技日程の件

事務局より第3号議案「平成23年度他団体の競技日程の件」について、JGA、8地区連盟等関連団体の競技日程がほぼ決定した旨報告があった。なお、北海道ゴルフ連盟は平成22年度12月末もしくは1月上旬に決定予定である。

#### 第4号議案:新規・賛助会員及び寄付金勧誘の件

事務局より第4号議案「新規・賛助会員及び寄付金勧誘の件」について、正会員に関しては早期100会員の実現、並びに公益社団法人化に伴い、税法上の特定公益増進法人のメリットを享受すべく寄附金勧誘活動が望まれるが、当面次のターゲットを中心に勧誘活動を推進したい。ターゲットは正会員の会員姉妹コース、仕掛案件、過去の退会コース、プリンス系ゴルフ場、その他未加盟パブリックゴルフ場等を考えている。賛助会員、寄附金依頼先は、ゴルフ用品・食品・飲料メーカー、旅行会社、一部上場企業、非上場優良企業等を考えている。

なお、勧誘上問題がある等好ましくないターゲット、また新規勧誘に関し会員コースからの情報提供をお願いしたい。また、当協会ホームページ上に、入会並びに寄附金勧誘の画面をアップ済である点併せて報告があった。

#### 第5号議案:シニアアンケート及び参加者データ分析結果の件

事務局より第5号議案「シニアアンケート及び参加者データ分析結果の件」について、報告があった。

1. 平成22年度シニアアンケートは、次の3点をポイントに実施した。

- (1) 初参加者の参加動機を把握し、今後の広報・集客活動に活かす。

「友人・家族の誘い」50%、「コースからのDM」32%、「協会からのDM」11%で合計93%。従来の前年度参加者、並びにPGS会員を対象に送付していた「競技案内」をより広く送付することが、新規参加者を確保する有効な手段であると考えられる。各コースの「友の会」会員まで競技案内の送付対象者を広げることを検討すべき。

- (2) 平成23年度より女子シニア、ミッドシニアの地区決勝が2日間競技に移行するので、選手の参加意欲を調査、傾向を把握する。

2日間競技となることに対し9割は「参加する」、1割が「参加しない」。

- (3) 参加者の全日本開催会場の希望を調査し、今後の会場決定の参考とする。

「近隣のコース」41%、次いで「有名なコース」20%、「観光地にあるコース」16%。また年齢が上がるに従い「プレー代が安いコース」を希望しており、今後の会場選定には「アクセスの良さ」、並びに「プレー代」については、特別な配慮が必要である。

## 2. シニア選手権:直近5年間の参加者データ分析結果

- (1) 参加者数はシニア3競技合計で1,342名、30%減で3分の2の規模に縮小。
- (2) 「年代別エントリー人数推移」は、男子シニア「55-59歳」が5年間で711名、56%減と半分以下の規模に縮小。一方70歳代のエントリー人数は約1.5倍となり、全体的に高年齢化が進捗。
- (3) ゴルフ参加率が低いと言われる団塊の世代が、シニア参加者年齢層のマジョリティを占めるに至った一方、その上の年齢層は年齢と共にゴルフ離れを起こしている。
- (4) シニア不振の原因は、団塊の世代による人口の狭隘化、並びに高齢者の年齢からくるゴルフ離れに起因しており、今後厳しい状況が一段と強まる。

### 第6号議案:コースレート査定の件

事務局より第6号議案「コースレート査定の件」について、平成22年度は新規入会2コース、15年経過3コース、コース改造1コース、合計6コースで実施した。内 TOSHIN TOKYO North Hills、紫香楽国際については、新規入会会員コース規程第7条3項に従い、コースレート取得後3年経過したら、査定費用の50%を当協会が補助する。

平成23年度に15年経過による再査定必要コースは、東日本地区の小淵沢と丘の公園清里、西日本地区のダンロップと武庫ノ台。これら4コースに対しては事務局が各地区連盟への窓口となり、再査定の申請を行う。

平成23年度にコースレート査定後、3年経過によりコースレート費用50%補助対象コースは、平成20年度入会の下館とアリジ花垣の2コースである旨報告があった。

### 第7号議案:クレーム報告(ミッドアマ・シニア)の件

事務局より第7号議案「クレーム報告(ミッドアマ・シニア)の件」について、クレームは3件あったがその内の1件、予選通過者に対する地区決勝への案内方法に関するクレームについて、報告があった。

予選でアテスト終了後に、競技委員が各選手のスコアを確認後、予選通過候補者に地区決勝出欠確認書を配布し、同用紙にて地区決勝の受付を行っている。地区決勝出欠確認書を渡す際に、選手に対してはあくまでも予選通過候補者である旨、一言加えて選手に案内しているが、今回のシニア予選では、その案内時に地区決勝進出決定と選手に伝わってしまい、最終成績で予選通過に一步届かなかった同選手が、地区決勝前日に開催コースを訪れるまで、出場権利を持たない事実を知らなかった事態が起こった。

事務局、当該コース支配人より同選手に謝罪したが、今後の対策は、予選・地区決勝開催コースが責任を以って、選手に伝達することに統一する。加えて、協会ホームページでの確認、あるいは出場コースに問合せの誘導等、を併せてアナウンスすることに統一された。

#### **【質疑応答】**

丹地理事:出欠確認書だけで地区決勝への案内を終えるのではなく、選手の立場で考えると、地区決勝進出者に対してはコース側から何かしらの通知を出すという方法は取れないのか。

森理事:西日本予選では通過ライン付近の選手には、開催コースから必ず選手に電話等で競技結果、地区決勝出場意志の確認を取っている。

浅井会長:協会にとって選手はお客様である。そのお客様に競技結果を知らせるのは当たり前であり、お客様不在を感じる。お客様目線でこの問題是对応、改善すべき。

島田専務理事:平成22年度3月配布予定の競技マニュアルにおいて、開催コースが参加選手に対して競技結果の報告、並びに地区決勝出場の意思確認をする旨、明記したい。

## 第8号議案:50年史構成(仮目次)(案)の件

事務局より第8号議案「50年史構成(仮目次)(案)の件」について、9月9日に第1回年史制作委員会を開催し、同委員会の審議を経て年史構成案が固まった。10月21日には年表台帳が完成し、今後はこの50年分の年表台帳をベースに制作を進めたい。また、10月22日には業者より仮目次(案)の提案を受け、これをベースに本文となる「PGS50年の歩み」の構成、内容を精査し、イメージのすり合わせ等を行っていく旨報告があった。

## 第9号議案:全日本シニア宿泊パック利用状況の件

事務局より第9号議案「全日本シニア宿泊パック利用状況の件」について、近畿日本ツーリスト(株)のシニア全日本競技での宿泊パック斡旋に関して、コート・ベール徳島(全日本シニア 10/13、14)は、6ホテルを紹介し5名が利用、那須野ヶ原(全日本女子・ミッドシニア 10/20、21)は、4ホテルを紹介し3名が利用した旨報告があった。

### **【質疑応答】**

石井副会長:近畿日本ツーリストがコースから近いホテルの部屋をほとんど押さえてしまい、選手からホテルを予約できないという問い合わせがコースに多数あった。事務局と近畿日本ツーリストで、改善できるよう話し合っ欲しい。

島田専務理事:平成23年度より改善できる様対応していく。

## 第10号議案:JGAクラブ会員の件

事務局より第10号議案「JGAクラブ会員の件」について、10月1日付で日本ゴルフ協会より、「JGAクラブ会員発足のお知らせ」を受領したが、本件に関し次の通り報告があった。

JGAクラブ会員の概要はJGAハンディキャップの取得を通じて、ゴルフの楽しさを広めることを目的に発足し、従来はJGA個人会員、JGAジュニア会員を募集していたが、より安価で手軽に入会でき、JGAハンディキャップを取得できるようにしたものである。年会費は2,520円である為、PGS会員がJGAクラブ会員へ流れ、PGS会員が減少することが予想される。当協会としてはアンダーハンディ競技の充実を含めた様々な特典を企画し、魅力ある会員制度を構築する必要がある。

JGAからは一方的な文書による通知のみで詳細が不明のため、JGA塩田事務局長宛てに照会状を送付した。内容は(1)JGAクラブ会員の入会対象者、(2)新設の動機、(3)当協会との関係、(4)JGAクラブ会員のJ-sys登録料、(5)楽天GORA、GDO両者の位置付け、の5点。本照会状に対する回答は資料の通りである。

### **【質疑応答】**

西特別委員:楽天GORAの担当者の話では、既にJGAクラブ会員登録人数は約4,000名、そのほとんどが関東地区であり、会費は月額210円で年間2,520円である。また、詳細はわからないが、楽天GORAはJGAハンディキャップによるアンダーハンディキャップゴルフ大会を12月に既に開催予定。東日本地区としてはPGS会員の減少等、危機感はあるが、地区連絡協議会で意見を出し合い、PGSアンダーハンディ競技の活性化を目指したい。東日本地区はカラスステージにてアンダーハンディ競技を開催しているが、会員にはPGSでハンディキャップを取って良かった、と思われるように今後も競技をグレードアップさせていく方針である。

丸山事業委員長:JGAが本年12月、新たに開催するJ-sysアンダーハンディキャップ選手権にはPGSからJGAハンディキャップを取得している方(ノン・クラブメンバー)は出場できない。PGSはJGAハンディキャップの普及に取り組み、現在は全国で約2万人以上の取得者を集めているのに、PGSからは何故、JGAのアンダーハンディ競技に出場できないのか。この問題に関しても引き続き、取り組んでいきたい。また、楽天GORAに負けないようにPGS会員を増やしていかなければ、いつまで経ってもPGSアンダーハンディ競技が活性化されない。

石井副会長：確かにPGS会員を増やせばアンダーハンディ競技の参加人数が増え、競技会自体が活性化される、との発想を持ってきた。故にPGS会員を増やす努力を続けてきたが、楽天GORAやJGA直轄で簡単にJGAハンディキャップが取れるようになった今、わざわざPGSからJGAハンディキャップを取ったお客様に、ゴルフ場従業員はPGS会員のメリットについて何と説明すれば良いのか。近年、ゴルフ業界は大きく変化している。JGAも危機感を持ったのか、アンダーハンディ競技を開催するようになった。であればPGSとJGAのアンダーハンディ競技を差別化する為にもPGS会員に対するメリット提供が重要だと思う。また、今まで当協会はJGAや8地区連盟に対して、競技会のシード権を要求し続けてきたが、当協会は他団体から、何人のシード枠を貰えば気が済むのか、という個人的な想いもある。今回はJGAクラブ会員、JGAハンディキャップの話がキッカケとなったが、今や当協会のゴルフ業界での位置付け、つまり今後の協会方針を明確にすべき時期にきている。これはPGS加盟コースとしてPGSの加盟メリットにも繋がる話であり、早急に検討しないと、PGS加盟コースがバラバラになる気がする。東日本地区としては、JGAクラブ会員発足に対して、重大な危惧を持っている。

樋口理事：今や楽天GORAやGDOのようなインターネットによるゴルフ場向けの予約代行業者がゴルフ業界に参入してくる時代になり、JGAハンディキャップが商売道具に使われている感がある。

林理事：PGS東日本地区の現状は、ハンディキャップ登録者が11,000人いながら本年度PGSアンダーハンディ競技参加者は2,600～2,700名。複数回出場者を見込めば、約10%のPGS会員しか競技に出場していない。楽天GORAは何人の登録者を集められるかわからないが、JGAハンディキャップを取得しても競技には出場しない一般ゴルファーが多数を占める中、PGS加盟コースは今後もアンダーハンディ競技の参加人数を増やさなければいけないという厳しい命題がある。だからこそJGAクラブ会員の発足は、PGSにとっては脅威であり、危機感を持たなければならない。これを機に当協会メリット、並びにPGSとして将来どうするのか、に関して議論しなければならない問題だと思う。

もう1点。東日本地区の新潟サンライズがPGSを退会すると聞いたが、退会の話は早急に情報が欲しい。例えば東日本プロアマやクラブ対抗等は協会事業として行っている為、協会を辞める話が来た場合は、その点も含めてコミュニケーションを取らなければいけない。

最後に1点。その新潟サンライズが関東ゴルフ連盟(KGA)の準会員になるという話がある。KGAの準会員であれば年会費(16万円。※冬季クローズ有りの場合は8万円)、J-sys登録料(@735円)と共に現状より安価になり、PGS加盟時との違いはパブリック選手権等が開催できるかどうかの差だけである。その違いだけで、年会費が安くなり、さらにJ-sysをそのままコースで使える。地方のコースであれば、今後新潟サンライズと同じ道を選択する加盟コースが、次々に出てくる可能性がある。

島田専務理事：東日本地区がKGAに準会員として入会し、10年前に当時のG-sysを導入した際に、KGAとは準会員の年会費を負担する条件として1. G-sysの使用料、2. KGA主催競技に参加の道を拓く、3. 新規コースの勧誘に関して、パブリックコースはPGS、メンバーコースはKGAで仕切る、との約束があったと記憶している。この3.を前提に今回の新潟サンライズをKGAがどう判断するのか。確かにPGSを退会したパブリックコースが、KGAの準会員として認められJ-sysによるJGAハンディキャップが取得できれば、新潟サンライズと同様の選択をとるコースは当然に出てくるはず。

森理事：確かにJGAクラブ会員については危機感を持たなければならない。PGSとして楽天GORAには負けない攻めの気持ちを持って、新しいことに取り組む必要がある。

例えば、協会ホームページを使って、広くPGS会員の募集を募る等、考えて行かなければならないと思う。

島田専務理事:各委員会の正副委員長に今後の課題、問題点等について意見を出してもらいそれらをすり合わせた上で、当協会の将来展望の議論が必要である。

浅井会長 :以前から申し上げているが、残念ながら現状のゴルフ業界はPGSが中心ではない。今後我々にとって重要な事は、ゴルフ業界におけるPGSの立つ位置、評価をどう上げるかである。ゴルフ業界で一番に公益法人となり、今後JGAとの関係をどう築いていくのか等を含め色々と動いてきたが、残念ながらまだ現状はそう変わっていない。今我々にとって一番重要な事は、危機感の共有であり、その為には当協会の課題、問題点、将来の展望をまとめる為に、小人数のプロジェクトチームを立ち上げては如何か。PGSの方向性がわかるように画にして示し、誰が何をするのか、を考えるプロジェクトチームの立上が、この問題に対する現実的な解決方法だと思う。早期に特命プロジェクトチームのメンバーを決定し、全会員に対して協会の将来図・夢を示していただきたい。

(附記)浅井会長の提言により、理事会終了後三役会議(会長、三副会長)が急遽開催され、浅井会長より、特命プロジェクトチーム委員が下記の通り指名された。

1. 委員(会長指名)

林 一郎 (常務理事・事業委員会副委員長 千葉よみうり)  
西 治彦 (特別委員・HDCP委員会副委員長 八千代)  
島田 忠次 (専務理事)

2. アドバイザー

久保田誠一 (理事)

3. 書記

中村 知則 (事務局)

第11号議案:日本ゴルフサミット会議「2011年ゴルフ新年会」の件

事務局より、第11号議案「日本ゴルフサミット会議2011年ゴルフ新年会の件について、次の通り報告があった。

1. 開催日時:平成23年1月14日(金)
2. 場所 :ANAインターコンチネンタルホテル東京
3. 会費 :1万円
4. 当日スケジュール
  - (1) 日本ゴルフサミット会議 :10:00~11:00
  - (2) 新春特別企画講演 :11:10~12:30  
※案内は石川遼プロの父だが、テーマ・講師は現在最終選考段階
  - (3) 新年会パーティ :12:40~14:30

第12号議案:ゴルフ場利用税廃止署名運動の件

事務局より第12号議案「ゴルフ場利用税廃止署名運動の件」について、全国合計1,283,023名の署名が集まり、目標署名者数2,000,000人に対する達成率は64%。最終的には1,300千名を超える見込みである。なお、ゴ連協からは従来自民党にゴルフ議員連盟があったが、平成22年11月頃を目途に超党派によるゴルフ議員連盟が新たに設立される見込みで、当該連盟に同署名簿を持ちこむとの連絡を受けている旨、報告があった。

**【質疑応答】**

浅井会長:PGS加盟コースでは何名の署名を集めたのか。

事務局 :未確認。至急確認・報告したい。

以上を以って、本理事会の全議題を審議し審議事項第8号議案を除き、原案通り承認された旨の報告後、島田議事進行役が議場に対して議事進行の協力に謝した。

#### 7. 浅井会長閉会挨拶

次いで、浅井会長より閉会挨拶があった。

皆様、大変お疲れ様でした。

楽しい話題ばかりではありませんでしたが、我々が置かれている状況で、今何が問題なのかを考えさせられる良いタイミングであったと思います。先程、話があった通り特命プロジェクトチームを早期に立ち上げ、早急にタタキ台を策定して頂きたく宜しくお願ひしたい。

#### 8. 閉会宣言

浅井会長が、平成22年度第4回理事会・第4回合同委員会の閉会を宣言し終了した。

以上

上記の議事を確認するため、議長及び議事録署名人は、次の通り署名押印する。

平成22年11月11日

公益社団法人日本パブリックゴルフ協会

議長 浅井 光昭 印

議事録署名人 森田 敬 印